

生活スタイル別

— PREPARE FOR AN EARTHQUAKE —

大地震への備え

一戸建てに住む人、マンションに住む人、そしてペットと暮らす人。人それぞれ生活スタイルが違う中、地震時に必要となる「備え」もそれぞれ変わってくるはず。あなたも自分の生活スタイルにあてはめて、改めて災害への「備え」について考えてみませんか？

一戸建てで暮らす人

※木造アパートを含む

P10へ

マンションで暮らす人

P11へ

ペットと暮らす人

P12へ

もしも鶴見区で大地震*が起こったら

死亡者

281人

家屋の全壊・半壊

12,347棟

建物倒壊での死者数は125人

家屋の焼失

7,886棟

火災での死者数は148人

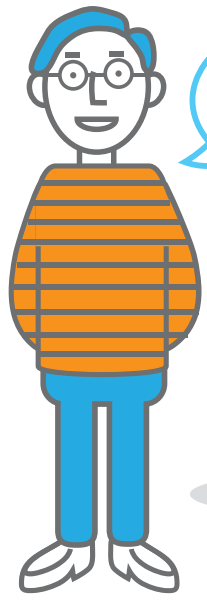
避難者

58,283人

帰宅困難者

30,475人

※元禄型関東地震最大震度6強の想定
出典:わが家の地震対策鶴見区版
(総務局危機管理課)



一戸建てに暮らす僕らは
どんな備えが必要なの？

その1 自宅を大地震でも倒壊しない家に 一戸建ての備え

家が倒壊するかしないかで、その後の被災生活も大きく変わります。95年の阪神・淡路大震災では、犠牲者の9割が家屋倒壊による圧死で、その多くが古い耐震基準で建てられた住宅でした。そうした悲劇を繰り返さないよう、市では古い耐震基準で建てられた木造住宅を対象に無料の「木造住宅耐震診断」を行っています。対象は市内にある1981年5月以前に建てられた持家(その他要件あり)。診断結果から、耐震改修が必要な場合に、課税世帯は上限105万円、非課税世帯は145万円の補助があります。

※2019年3月末までに工事完了するものに限り補助限度額を30万円増額し上記の金額としています
▶詳しくは市版4ページをご覧ください。

無料
まずは耐震診断を!

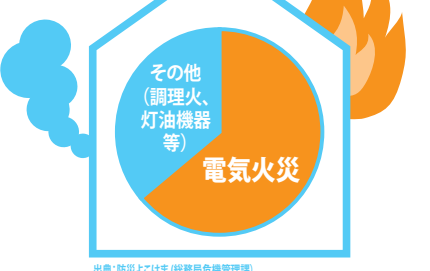
改修が 必要なら
上限※
105万円
(145万円)
耐震改修

主な耐震改修工事
工事内容は、壁に筋かいを設置する、柱や梁を金物で緊結するなどです

1981年5月以前に建てられた木造住宅
その他要件あり

岡 建築局建築防災課
☎ 671-2943 ☎ 663-3255

地震による火災の原因



その2 地震での火災から我が家を守る

地震での火災の6割以上が「電気火災」によるもの

地震を原因とする火災では、電化製品のケーブルが破損しそこから出火する通電火災や、停電状態で倒れたストーブに送電され発火する再送電火災など、電気火災が大半を占めます。それを防ぐのが、一定の揺れで電源を切る感震ブレーカーです。

感震ブレーカー(分電盤型)



設定震度以上の揺れを感知すると自動で電気を遮断



感震ブレーカー(簡易型)

※イラストはおもり式

おもり式の場合、揺れがおもりに共にブレーカーが落ちます。簡易型(おもり式)やばね式などは工事不要で簡単に設置可能

その3 庭の一部を有効活用! 「家庭菜園」で自給自足

家庭で育てやすい野菜

キュウリ

枝豆

カブ

災害時に困るのが食料の確保はもちろん、その栄養バランスです。レトルト食品や缶詰などが中心となる食生活では、偏食(特に野菜類の不足)になりやすく、体調を崩すことも。そんな時、あると便利なのが家庭菜園です。日頃から庭の空きスペースやプランターで野菜を栽培しておけば、緊急時に家族で食べる量くらいは確保できます。春から夏にかけては枝豆などがお勧めです。

日常備え

備えはいつも日常の中に



日々の暮らしにローリングストック法を!

備える

使う

買い足す

ポイント1
もしもの時には簡易型コンロが便利

仮にガスが止まっても、カセットコンロがあれば、温かい食品が食べられます。ボンベは少し多めに備蓄しておくと、安心です。

ポイント2
日用品も同じように

災害時必要なのは食料品だけではなく、日常的に使用するティッシュ類、洗剤、乾電池、使い捨てカイロ、コンタクトレンズなど、「いつも使う、買えなくなったら困るもの」はいつも多めにストックしておきましょう。

トイレ・生活用水の備えは、想像以上に重要

食料や水分の補給と同じくらいに大切なことが、トイレです。空腹を我慢することはできても、トイレを我慢することは体に異常をきたし健康にも良くありません。しかし、災害時には断水などにより、トイレもままならなくなってしまいます。そんな緊急時に、トイレバックの常備や生活用水の確保は重要です。

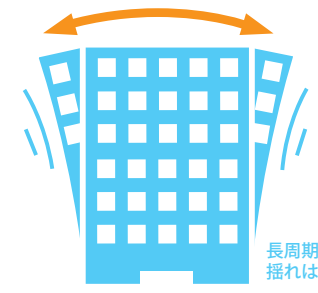
ポイント1
トイレバックとは?

ポリ袋を便器にセットし、凝固剤などをに入れて使います。1回ごとにポリ袋を交換するため衛生的ですが、いざ使うときに戸惑わないよう、平常時に一度ご家庭で試しておきましょう。何も無い時は新聞紙でも代用ができます。

ポイント2
浴槽を有効活用

非常時の生活用水として、浴槽には常に水を張っておきましょう。トイレ、洗濯、掃除、手洗いの際にとっても便利です。特にマンションでは、各戸用の雨水タンクなどの設置が難しいため、浴槽は災害時の貯水槽に早変わりします。

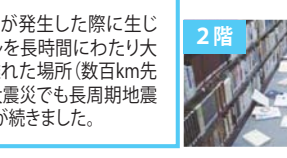
マンションの備え



長周期振動では、上層階の揺れは低層階に比べ数倍に

その1 マンションは長周期地震動に注意!

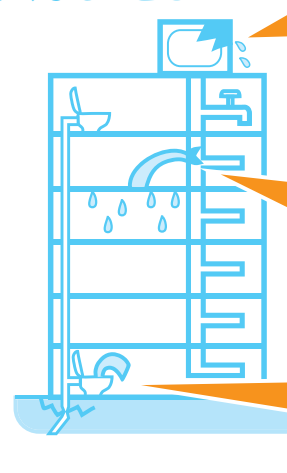
高い建物は、「長周期地震動」により長時間大きく揺れます。この揺れで、上層階では家具の転倒や窓ガラスの破損など、屋内の被害が大きくなる可能性があります。そこで大切なのが、家具などの転倒やガラスの破損などから自分の身を守る。背の高い家具や倒れやすいテレビ、割れると散乱する窓ガラスを補強することで、被害を軽減できます。被災後も自宅でも暮らし続けられるよう、事前の備えが大切です。(→詳細は紙面下段を参照)



ビルの2階と24階ではここまで被害の状況が変わります
出典：知ってる?長周期地震動のこと(気象庁)

その2 設備の破損により水回りが使えなくなることも!

マンションでは水道水を一旦、屋上の給水タンクにくみ上げ、それを各世帯に給水するため、タンク・配管の破損や停電などでも水が使えなくなることがあります。また、仮に使えたとしても、低層部で配管の破損等があった場合、上層階で流した汚水が低層階のトイレから噴き出したりするなど、2次被害を招く恐れもあります。そのほか、停電時にはエレベーターが動かず、階段での昇降を余儀なくされる場合も。そうした事態にも備え、マンション内で災害時の行動計画を作っておくことも大切です。

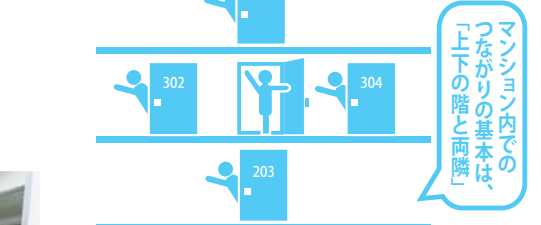


停電時にはポンプが稼働せず水の供給が止まる可能性も

配管の破損により、水がもれ下層階の部屋に浸水することも

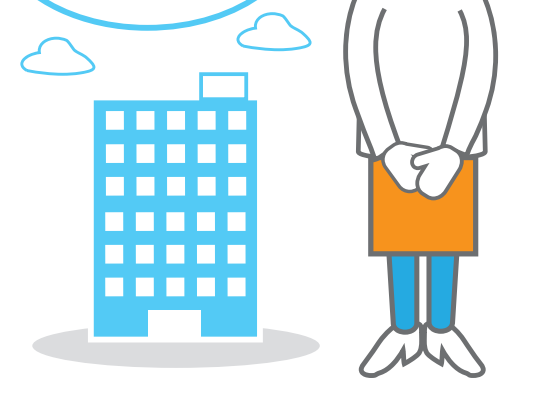
排水管の破損で、下層階のトイレなどから汚水が噴き出すことも

その3 上下階・隣近所と顔のつながりを



マンションは、戸建住宅と比べ、近隣との関係が希薄になりがちです。しかし、災害時になれば、近隣住民との助け合い(共助)は不可欠となります。そんな時のためにも、普段から顔の見える関係が築ければ、災害時にも心強いはず。まずは、日頃のあいさつや行事への参加などで、顔見知りを増やしていきましょう。

マンションに住む私たちが心得ておきたいことは? マンション独自の備えも必要なのかも



岡 区役所防災担当 ☎ 510-1656 ☎ 510-1889

携帯電話は大切な情報源

今や生活に欠かせない携帯電話。特に災害時には、刻々と変わる被災状況の把握や安否確認、また家族や親類との連絡手段にも欠かせません。その一方で、被災中は停電や充電用電源不足などで、充電がしづらくなる可能性も。そうならないため、日頃から電源の確保について考え、準備しておくことが大切です。

イチオシグッズ

普段使いでもあると便利なモバイル電源グッズ

ソーラー充電器
日中なら取り回しでも太陽光で充電可能
3,000円~

手回し充電器
ハンドルを回すだけで充電可能
ライトも付く
2,000円~

モバイルバッテリー
充電式と乾電池が両方使える
2,000円~

日頃から使用し、常に持ち歩くことで、緊急時でも安心!

被災後にも自宅で快適に暮らすには

自宅の安全を確保することができれば、日頃住み慣れた自宅があなたの避難所になります。落ち着く自宅で暮らし続けるためにも、屋内の被害を最小限にとどめられるよう必要な備えをしておきましょう。

これで屋内での被害を大幅に削減! イチオシグッズ

ガラス飛散防止フィルム
家中のガラスに貼ることで、ガラスの破片によるけがから身を守れます。
1,000円~

L字金具タイプ
150円~
家具の転倒防止に固定は基本。壁、床、天井などもしっかり固定しましょう。

突っ張り棒タイプ
1,000円~

耐震マット
1,500円~ ※4枚入り
テレビなど不安定な家電は、揺れにより倒れたり飛んだりする可能性があります。耐震マットを底に貼って固定しましょう。

※自身での取付けが難しい人様へ

市では、同居の家族全員が、75歳以上の高齢者や要介護認定、障害者(愛の手帳)の交付を受けている世帯を対象に、家具転倒防止器具の取付代行サービスを行っています。※29年度の募集は終了しました

これだけは覚えておきたい!

緊急時に役立つ「しつけ5選」

あなたのワンちゃんネコちゃんはできますか?



ペットと避難した場合、避難所では、ペットは飼い主と別の場所で過ごすことになりま

す。避難所でのトラブルを防ぐためにも、普段から最低限のしつけはしておきましょう。

ふせ **ふせ**

ができれば、犬が苦手な人にも安心感を与えます

まて

まて!

の合図で10秒待てるようになったら◎

おいで

おいで

は、道路に飛び出した時に安全に呼び戻すために役立ちます

猫は胴輪に慣れさせる

避難所での暮らしに役立ちます

ケージに慣れさせる

避難所ではケージの中での生活です

ペットがいる人の備え

ペットは家族の一員! だからこそ、「+αの備え」が必要なんだね

☎ 区役所環境衛生係 510-1845 fax 510-1718

迷子防止のため一緒に避難を

東日本大震災では、ペットと一緒に避難することが周知されておらず、飼い主とはぐれ放浪するペットが多く生まれてしまいました。市では原則ペットとの同行避難を推奨※しています。大切なペットと離れなければならないためにも、災害時には迷わずペットと一緒に避難してください。

また、もしもの時のために、迷子札(犬は鑑札や注射済票)をつけておきましょう。

※災害時におけるペットの救護対策ガイドライン(環境省)に基づく



実物大

約10mm

もしも迷子になった時のために・・・「マイクロチップ」は装着済みですか?

マイクロチップには15桁の数字が記録されており、専用の読取器で読み取ることができます。話せない犬や猫の体に埋め込むことで、迷子時にも確実に身元証明ができる便利なシステムです。

準備していますか? ペット専用の非常用持出袋

避難所に届く物資には、優先順位もあるため、ペット用の救援物資はすぐに届かない場合があります。そうした際に困らないよう、ペット専用の準備を必ずしておきましょう。

- 水とフード** 特に薬・療法食は入手しづらいので、必ず備えを
- ペットシート類** 代わりに使える新聞紙もあると◎
- 伸びないリード・胴輪(ハーネス)**
- ケージ** 犬も猫もケージは必ず用意してください
- ペット手帳** 飼い主の連絡先やワクチン接種状況など、ペットの情報を記載したものを作成しておきましょう
- HP ペットも守ろう** 検索 記載項目の例などが載っています

災害時こそ、「正しい情報」と「安心」が必須!

災害時に怖いのは、噂や誤った情報による混乱。また、離ればなれになった家族の安否も気になります。そこで、日頃から「情報の備え」を実践し、万が一の時に備えましょう。



鶴見区災害情報ツイッター

災害時に避難所の開設状況などの緊急情報をお知らせします。「鶴見区災害情報ツイッター」にアクセスし、「フォロー」をクリックすれば登録完了です。詳細は、[HP 鶴見区災害情報 ツイッター](#) 検索



横浜市防災情報Eメール

事前に登録すると、地震、津波、気象警報・注意報、河川水位、緊急のお知らせなどの防災情報が送られてきます。右記QRコードか下記メールアドレスへ空メールを送信。登録案内が届きます。横浜市防災情報Eメール:entry-yokohama@bousai-mail.jp



災害用伝言ダイヤル 171

災害時用の「声の伝言板」です。家族や知り合いと伝言機能で情報交換ができます。稼働するのは災害時のみですが、毎月1日と15日に試行できるので家族みんなまで使い方を覚えましょう。詳細は [HP 災害用伝言ダイヤル](#) 検索



家族間での取り決め

家族が離ればなれで被災した場合、「どこへ避難するか」、「集合する場所は」など、緊急時の行動を普段から家族間で話し合っておきましょう。また、携帯電話などが機能しないことも想定し、連絡方法もあらかじめ決めておきましょう。家族の安否が分かれば心にゆとりが生まれ、落ち着いて行動できるはずですよ。

生活スタイルが違えば、もちろん災害の「備え」も変わります

区役所防災担当係長 森田 進一



横浜で震度6弱の大地震がおきる確率は、30年以内に81%と言われている今、「明日にも大地震がくるかも」と自分事に捉え、「備え」を考えることが大事だと思います。私も一戸建てに住んでいますが、もしもの時の生活用水確保のために庭に大型タンクを設置しています。また、感震ブレーカーを設置したり、突っ張り棒タイプの器具で家具を固定したり、備えをしています。ただ、もし私がマンションに住んでいたら、きっと備えは変わっていたでしょう。備えは生活スタイルにより変わるものなのです。

また、備えは大震災に見舞われた人たちからの教訓でもあります。熊本地震では実際、ソーラー式充電器などの電源が確保できるものにとっても助けられたそうです。決して特別なものではなく、日常使うものに対し普段から備えておくことが大切なのです。

市内には、地震の揺れなどを体験できる市民防災センター([区民センター](#) 横浜市市民防災センター ☎411-0119 ☎312-0386 ※事前予約可)があり、だれもが災害の恐ろしさや備えの大切さに気付ける仕掛けがいろいろあります。機会がありましたらぜひ見学・体験してみてください。